



## <教育特集>

### AI時代の教育について

教育企画会議長 宇野 力

令和4年度からの秋田大学の中期計画・中期目標における教育改革への取り組みの一つとして、ICT活用力の向上について「みなおと No. 51」においてお伝えしました。これに関連して、バーチャルに体験できるXR(Extended Reality, 仮想空間技術の総称)やAI(Artificial Intelligence, 人工知能)等のICT教材を令和9年度までに開発して本学部の授業において取り入れるべく進めています。とはいえ、近年において劇的に進化を遂げているのがAIであり、すでに生成AIを誰もが手軽に利用できる社会環境が実現しています。このような急速なAI普及が便利さをもたらす一方で、生成AIを人生相談の相手として過度に依存してしまい、実在の他者とのコミュニケーションの機会が減少してしまう事例を聞き及びます。また、AIが人間の知的能力を全面的に上回る瞬間“シンギュラリティ・ポイント”が話題になり不安を掻き立てることもあります。

教育の分野においても、AI利用は学習者個々の興味や理解度に合わせて学習ができるなどの利点がある一方で、以下に挙げるようなデメリットも考えられます。まずは、AIに答えを頼りすぎると、

自分で考える力が低下することが懸念されます。授業の課題等に対して、AIが示した解答の丸写しを繰り返しているのは学生本人の成長が阻害されます。学生の皆さんには、何のために勉強するのかということを忘れずに学業に勤しんでいただ

きたいと思います。そもそも、AIの答えは必ずしも正しいとは限らないですし、分野によっては偏ったデータに基づいた説明を示してくることもあるので、そのような点を踏まえてAIを利用するように心がけていただきたいと思います。人間文明が築き上げたAIとは程よいバランス感覚を保ってお付き合いしていきましょう。



## 【学生によるコース紹介】

### 学校教育課程 教育実践コース

3年次 小田島 陸

2025年度より開設された初等中等教育コースは、これまでの教育実践コース・英語教育コース・理数教育コースを統合した新たな枠組みです。本コースの最大の魅力は「柔軟に進路を選択・決定できること」にあります。従来は取得したい免許や専攻教科を入学時点である程度決定し、大学のカリキュラムに則って授業を受ける必要がありましたが、現行のカリキュラムにおいては自由度が増し、学びたい領域や教科を学ぶ機会が開かれたと言えます。よって大学入学時点で専攻教科を国語か社会のように複数で悩んでいたりと、小・中・高の校種を決めかねていたりしても大学で実際に学んでみてから決められるようになりました。もちろん教科を限定することなく2教科の免許も取得することができる他、特別支援教育、司書教諭、社会教育主事等の免許も取得可能です。

また、1年次では附属学校訪問、2～4年次では本学の附属学校や県内の公立学校での教育実習を通して子どもたちと関わるすることができます。大学の講義で学んだ理論を現場で実践することで、絶えず理論と実践の往還の中で学びを深められたり、自身の教育観を見つめ直す良い機会となったりします。

さて、ここまで簡潔に本コースの特色を述べてきましたが、なかなか大学生活をイメージできない方もいらっしゃるでしょう。そこで私が専攻している国語科の学びを簡単にご紹介できたらと思います。

国語というと『ごんぎつね』や『少年の日の思い出』のような皆さんがこれまで読んできた教材や、読書感想文等の作文を思い浮かべる方が多いでしょう。それらを子どもの目線だけではなく、教師の目線から捉え直すというのが我々の日々の営みと言えます。加えて国語国字問題やポライトネス等の日本語学、文学作品を読んでテキストを分析・考察する文学批評も学んでいます。

このように大学入学後は自身の興味や関心に応じて学習内容を選択し、探究することができます。学生には1年次から個人用ロッカーが与えられますし、自習室も自由に利用することができます。学業のみならず不安や困りごとが生じた場合は先生方が相談にのってくださるため、充実した環境

で学びを深め、進路の実現に繋がられます。少しでも本コースの魅力が伝われば幸いです。



〈自習室を利用する学生の様子〉



〈学生に与えられる個人ロッカー〉

## 学校教育課程 英語教育コース

3 年次 齋藤 実蘭

英語教育コースでは、小学校・中学校・高等学校の英語科教員を目指している学生が学んでいます。日々の授業や実習など、助け合いながら目標に向かって進んでいくことができます。

現在 4 名の先生が所属しており、英語教育についてはもちろん、英文学や発音、異文化理解など、様々な分野を学べます。多くの授業はオールイングリッシュで行われているので、日々の授業を通して、英語力を高めることができます。また、一部の授業は他大学の先生が担当されているので、英語教育の視野が広がります。

英語教育コースは一学年 10 人前後と少人数なので、様々な授業に協力して取り組みます。特に、模擬授業では教師役・生徒役が協力して楽しみながら行います。模擬授業は個人で行うこともあれば、グループで行うこともあります。実際の教育現場では ALT の先生とチームティーチングでの

指導が多いので、グループで行うときはチームティーチングの練習にもなりますし、ALT の立場になって授業を考える経験にもなります。教師役の学生は緊張等してしましますが、生徒役の学生が全力で小学生や中学生になりきってくれることで、安心して授業を行う事ができますし、授業準備しているときに予測できなかった学習者の反応を得られたり、臨機応変な工夫の仕方を学んだりできます。この経験が教育実習での学びをさらに深めてくれます。

授業内だけでなく、授業外でも仲がいいのが英語教育コースの特徴だと思います。一緒に昼ご飯を食べることもありますし、授業後や休みの日に一緒に出かけたりもします。長期休みでは一緒に旅行に行ったりしている人もいます。



## 学校教育課程 理数教育コース

3年次 浅野 巴

教育文化学部理数教育コース3年時の浅野巴です。理数教育コースは、1・2年次と3・4年次で学生生活が異なります。1・2年次は理数教育コースの同期の人たちと教養科目と呼ばれる科目の教科や教科専門と呼ばれる科目の授業を受け、教員になるために必要な単位を取得します。私は2年次に学習した理科ICT活用教育という授業がとても印象に残っています。理科ICT活用教育では、プログラミングを学んだり、授業で使うICT教材を実際に使って見たりして、どのように活用できるか考え、実戦してみる授業になります。授業の最後には秋田県自作視聴覚教材コンクールに作品を応募してこの授業で学んだICT教材を活用する力がどこまで伸びたか他の人たちに審査してもらい確かめます。

そして2年次の終わりに将来自分は理科の教員になるのか数学の教員になるのか決めます。3・4年次になると、1・2年次のときに決めた将来理科・数学のどちらの教員になるかによって研究室と呼ばれる部屋に配属されます。研究室は、教員・大学生・大学院生が所属して、3・4年生の人たちと同じ部屋で大学生活をし、特定のテーマについて研究する場所です。私は理科専攻ですので今回は理科の研究室について説明します。理科の研究室は大きく分けて5つあり、「物理・化学・生物・地学・理科教育学」です。私は理科教育学研究室に所属しており、理科教育について新たな教材やジオパ

ークの活用について研究しています。研究室には4年次の先輩も居て研究に関する様々な助言をしてくれます。また、年に数回理科教育学会をはじめとした学会と呼ばれるものに参加します。学会では、他の大学で理科教育について研究している教授や学生の発表を聞いたり、逆に発表を行ったりします。学会に参加することで新たな知見や自分の研究に対する多くの助言を得られとても勉強になります。

ここまでが理数教育コースの主な学校生活です。理数教育コースは、学業ももちろんのこと年1回1~4年次が集まった体育祭があります。体育館を借り、学年の垣根を越えて絆を育みます。理数教育コースで受ける授業は理科・数学の教師になる上でとても役に立つことが多いです。これを読んでいる高校生の皆さんが理数教育コースに入学してくるのをとても楽しみにしています。勉強は大変かと思いますが頑張ってください！



左：体育祭にて

上：授業での望遠鏡による月の撮影

## 学校教育課程 特別支援教育コース

2年次 小林 歩夢

特別支援教育コースでは、主に特別支援教諭を目指して、障害を抱えている子どもとどのように向き合い、支援していくのかについて勉強していくコースです。このコースでは特別支援教諭を目指すだけではなく、「中学校の先生を目指したい」、「小学校の先生を目指しながら特別支援教諭も視野に入りたい」といったように、自分の将来像に合わせてカリキュラムを設定することができます。特別支援教諭の免許は勿論、小学校・中学校・高校教諭の免許・資格を取得できる他、保育士、学校司書、社会福祉士の免許も取得することが出来ます。また、実際に特別支援学校や福祉施設に実習やボランティアとして訪問する機会も多く充実しており、子ども達と触れ合いながら学ぶことができます。

特別支援教育の対象である障害を抱えている子ども達は、個々によって症状や特性が異なっている為、それぞれのニーズに合わせた教育を実践する必要があります。児童生徒1人ひとりのニーズに合わせた教育が指導内容・方法において基本を追求していることから特別支援教育は「教育の原点」と呼ばれています。このことについては実際に私も実習の際に実感することができました。小学校での実習でしたが、得意不得意や性格が異なっている児童に対し、個別で指導内容を考えて実践するだけでなく、全体に向けてどのように話し、板書をすれば分かりやすい授業に繋がるか、といった意識を持って臨むことができました。学習指導においては、子どものニーズに応じた支援・指

導が必要です。多くの視点を持ち、実際に現場に立ちながら教育学を学ぶことは、学校種関係なく、教育に携わる方にとっては必ず学びになると思います。

他にも、特別支援教育コースで1～4年生共通の学習室を使用することや、コースならではのイベントも豊富なことから、他学年とも楽しく交流することができます。新入生歓迎会や演芸祭、スポーツ祭など沢山の行事があり、どれも充実した時間を過ごすことができます。私もこの行事を通して同期・先輩・後輩と全員で盛り上がり、充実した学校生活を送ることができています。学びだけでなくイベントにも全力で、人との繋がりを大切にしているところも、このコースの魅力です。

これら以外にも、特別支援教育コースにはまだまだ沢山の魅力があります。是非、私たちと一緒に特別支援教育について学びながら充実した大学生活を送ってみませんか？皆さんの入学を心からお待ちしています！



## 学校教育課程 こども発達コース

2年次 後藤 日菜乃

こども発達コースでは、入学後に主免を幼稚園教諭・保育士か小学校教諭のどちらか2つから選び、保育者や教師を目指します。加えて、主免とするもの以外にもさまざまな免許や資格を取得することができます。特別支援学校教諭免許や図書館司書などを取得する学生が多く、それぞれの面から保育・教育について学ぶことができます。

こども発達コースでは、4年間を通してたくさんの子ともとかかわりながら学びを深めることができます。1年次では、教育実地研究Ⅰという授業で児童館を訪問し、小学生と一緒に遊んだり、宿題を見たりします。2年次になると実習が始まります。幼稚園・保育園主免の学生は、保育園で行う保育実習と附属幼稚園で行う教育実習の2つを行います。小学校主免の学生は、附属小学校で実習を行います。また、介護等体験で特別支援学校や乳児院、社会福祉施設などを訪問し、たくさんの子ともとかかわることができます。3年次では、2年次よりも実習期間が長くなり、内容も実践的になります。指導案と呼ばれる、保育や授業の計画の作成を通して、より深い学びへとつなげていきます。より長い期間子ともとかかわることができるので、子どもを理解することにもつながります。4年次では、主免以外の免許（副免）の取得に向けた実習を行います。

また、幼稚園保育園免許取得予定の2、3年次

は、12月に附属幼稚園で行われる「おもちつき・こどもふれあいデー」に参加し、2年生は子どもたちが楽しめるような遊びを考え企画します。写真Aはそのときに考えたもので、画用紙を使ってバッグ作りをしました。また、10月に行われる秋大祭では、毎年こども発達コース1年次が中心となりお店を出します。写真Bは、チュロス販売したときの写真で、看板なども自分たちで作りました。

こども発達コースには、今回紹介しきれなかった魅力がたくさんあります。様々な場面で子どもとかかわりながら学びたい人はぜひこども発達コースへお越しください。みなさんと一緒に学べるのを楽しみにしています。



写真C こども園でのオリジナル劇発表



写真A おもちつき・こどもふれあいデー



写真B 秋大祭でのチュロス販売

## 地域文化学科 地域社会コース

2年次 佐藤 優芽実

地域社会コースは社会科学系の学問を深めたい人におすすめのコースです。教室で理論を学ぶことと現場で体験をすることを通して実践的に社会のしくみを学ぶことができますことが特徴です。年次が上がるにつれて基礎から発展、演習により専門的に学問について学びます。「ガバナンス」「ビジネス&マネジメント」「コミュニティ」の3つの分野から選択して学ぶことができます。「ガバナンス」では公法、民法、政治学、経済学、公共政策学などを、「ビジネス&マネジメント」では経営学、マーケティング、会計学、地域資源活用論、観光学、インターネット活用技法などを、「コミュニティ」では社会学、住居学、健康栄養学、地誌学、生態学、自然環境論などを学ぶことができます。私は「ガバナンス」の分野を中心に主に政治学や法学、経済学を学びながら、「コミュニティ」の分野の社会学も学んでいます。このように地域社会コースでは一つの分野だけではなく、分野を横断して幅広く社会のことを学ぶことができますことが魅力の一つだと思います。幅広い分野についての知識を身に着けることでほかの分野とのつながりを見つけてことができたり、新しい考え方が見えてきたり、選択肢が多いことで自分の興味に合わせて学びの形を柔軟に決めることができます。コース必修科目である「地域統計技法」の授業では、データの扱い方の知識や方法を学びます。地域の課題について取り組むときに必要となる、データの集め方やグラフの作り方などをパソコンを用いた演習をしながら学びます。私はこの授業を通してデータを客観的に分析することは地域について現状を正しく理解する上でも重要であることを学びました。また、地域連携研究ゼミなどの実際に地域の現場での学びを通して地域の実態を知り、将来に生かせる力を身に着けることができます。

写真は地域社会コースの学生が利用できる学習室の様子です。授業と授業の間の時間など自分の空いている時間に利用できます。話し合いながら学習をすることもできます。



## 地域文化学科 国際文化コース

3年次 近藤 風花

国際文化コースでは、人文科学の学問を通して日本を含む世界の多様な文化を学び、幅広い視野をもって地域に向き合うことができます。

専門分野は大きく分けて、歴史文化、表象文化、コミュニケーション文化の3領域です。歴史文化では日本史・東洋史・西洋史、表象文化では文学・映像・美術作品、コミュニケーション文化では文化人類学・言語学・哲学など、それぞれの領域で多くの学問が取り扱われています。基礎から発展・演習まで段階を踏んで学ぶことができるため、はじめて学ぶ分野でも気軽に履修することができます。また演習の授業ではグループで意見交換をしたり、学びを実際に活かしたりする時間もあるため、向上心をもって学習を継続することができます。

私が国際文化コースに所属してよかったと思うこととして、外国語学習を深められたことがあげられます。1年生から第二言語（英語・独語・仏語・露語・中国語・朝鮮語）としてドイツ語の勉強をはじめ、検定試験にも挑戦することができました。



研修旅行にて（聖母教会、ドレスデン）

また、3年生では海外研修でドイツに1週間滞在し、言語を実際に使うことができたほか、現地の文化に触れられ、とても有意義な経験を得ることができました。

また大学生活では、同じコースの友達とさまざまな話題で盛り上がることができます。学んだことを共有したり、フィールドワークや海外研修の経験を聞いたりする時間はとても楽しく、いろいろなことに興味をもつきっかけにもなります。時には他愛のない話で笑い合い、時には難しい課題と一緒に取り組んでくれるため、互いにモチベーションを高められるような良い友人関係を得られると思います。

国際文化コースではたくさんの学問や友達に出会えると思います。まだ学びたいことが絞れていない人や新しいことに挑戦したい人にとって、たくさんの選択肢を与えてくれること間違いなしです。まだまだ魅力がたくさんあるコースですので、少しでも興味が湧いたらぜひオープンキャンパス等にお越しください。



友人との忘年会

## 地域文化学科 心理実践コース

3年次 植田 早耶・山口 千颯

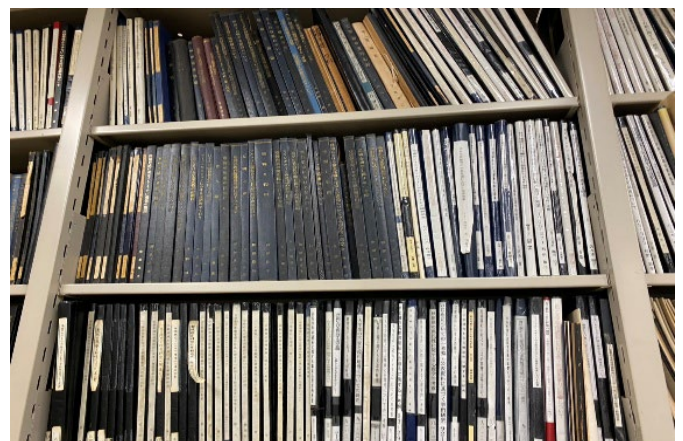
心理実践コースでは、授業を通して心理学の専門的な知識を学べたり、実習を経ることで授業とは異なる学びを得ることができます。このコースでは公認心理師や臨床心理士といった資格取得を目指し、大学院進学を希望する学生も多くなりますが、もちろん、学んだことを活かそうと就職へと進む学生も見られます。

コースへ配属されるのは2年生になってからですが、公認心理師取得のための必修単位は1年生から設定されているため、早い段階から心理学の基礎に触れることができます。2年生になると、専門的な内容の授業が増え、ここで自分が想像していた心理学とギャップを感じる人がいるかもしれません。しかし、実際に臨床場面で用いられる心理検査を実施してみたり、実験を通して様々な現象を体験したりと、これまでとは違った学びを得られると思います。3年生からは学外実習が増え、より将来を意識する場面が多くなります。教育分野だけでなく、福祉、司法、医療など様々な領域へと赴きます。授業もより専門的になり、学生同士で事例を検討したり、カウンセリング技法を学ん

だりします。さらに、卒業論文作成に向け、テーマを決めるために自分の興味関心と向き合う時間が多くなるとでしょう。心理学では教育、医療、福祉、産業、司法など幅広い領域があるため、様々な視点に立って考えることができます。

また、このコースの特徴として先輩方や後輩との交流の機会が多く、仲が良いことが挙げられます。教育分野の実習では、大学1~3年生が小学校を訪れ、心理検査を実施するのですが、大学生同士の連携や協力が重要となります。また、4年生や大学院生の卒業研究に参加する機会も多くあるため、自分自身にとって貴重な学びになると思います。

ここまで、心理実践コースの紹介をしてきましたが、皆さんが想像していた内容とは少し違っていただかもしれません。私自身も、このコースに所属してこれまでの心理学に対してのイメージが大きく変わりました。それでも、面白いと感じることが多く、ここで得た学びは将来に活かされるだろうと思っています。





## 最新技術は授業分析をどのように変えるのか

今回の研究では、「自動文字起こし」と「テキストマイニング」という技術を組み合わせることで、教室内の談話を比較的手軽に「見える化」できることを示しました。録音・録画データの取り扱いには倫理的配慮が不可欠ですが、その条件を満たせば、従来は時間と労力の面で困難だった授業分析を、より日常的な実践として位置づけることができます。この方法は大学の模擬授業にも応用可能で、教員志望の学生が、自分の授業のねらいをどのような言葉で語っているのか、受講者の発言とどの程度かみ合っているのかを客観的に確かめることができます。授業を印象だけで評価するのではなく、談話データに基づいて検討する。そのための道具として、最新技術は授業研究のあり方を変えつつあると言えるでしょう。



## 【活動紹介】



### 秋田大学教育文化学部天文台 1 月イベント報告



教育文化学部技術部 毛利春治・成田堅悦（総括技術長／シニア技術専門職）

2026 年 1 月、秋田大学教育文化学部天文台では、市民の天文リテラシー向上を目的に各種イベントを実施しました。

10 日・11 日には、平成 22 年度から継続して行っている星空案内人資格認定講座を実施し、「宇宙はどんな世界」「星空案内の実際」「望遠鏡のしくみ」などの講義に加え、10 cm 屈折赤道儀式望遠鏡を用いた実習も行いました。受講者からは「難しかったが星を見ることがより楽しくなった」との声が寄せられ、15 名中 9 名を星空案内人（準案内人）として認定する予定です。

また、11 日には、毎月第 1 土曜日に開催している天文サイエンスカフェと夜間天体観察会も実施しました。サイエンスカフェでは 2 件の市民による発表が行われ、1 件目は堺恵美子さんによる「宮沢賢治が見た星めぐりの旅『銀河鉄道の夜』」で、星空案内人資格の実地試験として高い評価を得て合格となりました。2 件目では信太浩信さんが、令和 7 年 12 月に秋田市と三種町で行った流星観測について、電波観測の結果や流星動画、隕石の話

題などを紹介し、参加者と活発に意見交換が行われました。夜間観察会は曇天のため望遠鏡による天体観察はできませんでしたが、国立天文台の「Mitaka」を用いた 4 次元デジタル宇宙シアターを上映し、立体的な宇宙映像に「とても良かった」と好評を得ました。

この他にも天文台では、インターネットを利用したオンラインイベントを実施しています。夜間は月と惑星の接近に合わせて毎月 2 日間、昼間は晴天時に太陽や金星の臨時中継を行っています。天文台ホームページでのライブ映像を配信しながら Zoom 解説を行っています。天文サイエンスカフェとして、市民による天体中継や情報紹介、天体写真の共有なども行っています。

これらの取り組みを通して、市民とともに天文を学び楽しむ場の重要性を再認識しました。今後は、SNS 発信やホームページの充実も進め、より多くの市民に天文に興味を持ってもらえるような活動を行っていきたいと思います。

[→次頁に写真が続きます]



写真 1 天文サイエンスカフェでの発表の様子

\*\*\*\*\*

## 教育学部・研究科の活動（2025年11月～2026年1月）

### 【全学】

1/17-18：大学共通テスト実施

1/23：学校推薦型選抜Ⅱ、私費外国人留学生入試

### 【学部】

11/7：第1回地域連携セミナー開催

11/22：学校推薦型選抜Ⅰ、総合型選抜Ⅰ入試

11/30：教員志望者対象のオータム・セミナー開催

12/4：第2回地域連携セミナー開催

12/9：第2回教育文化学部オンライン説明会

12/23：令和6・7年度教育文化学部国際交流等学術  
交流研究基金の助成事業成果報告会開催

1/8, 29：教育文化学部オンライン相談会

1/21：教育研究カウンスル及び運営カウンスル  
合同開催

### 【教育学研究科】

11/12：大学院説明会

12/20：第2期大学院入試

### 【附属学校園】

11/1：附属特別支援学校公開研究協議会

11/6：附幼第2回公開研究協議会

11/14：附中秋季公開研究協議会

12/5：附小公開研究協議会Ⅱ

### 発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html)

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html)

\* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_symbol.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html) をご覧下さい。